別添様式３

# 介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名　社会福祉法人　藤沢市社会福祉協議会

研修事業の名称　藤沢市社会福祉協議会介護職員初任者研修通学コース

| １　職務の理解（6 時間） | | |
|---|---|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①　多様なサービスの理解 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（居宅・施設）と介護保険外サービス（障がい者(児)サービス等）について理解する。<br>〈演習内容〉<br>事例検討を通じて、介護保険サービスが利用者の生活にどのように関わっているのか具体的なイメージをつかむ。 |
| ②　介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>居宅及び施設における介護職の具体的な仕事内容、サービスを提供する現場の状況を学ぶ。サービス提供に至るまでの一連の流れ、チームアプローチ、他職種との連携、地域社会資源との連携等について理解する。 |
| 合計 | 6 時間 | |

| ２　介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間） | | |
|---|---|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ①　人権と尊厳を支える介護 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>基本的人権、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止、身体拘束禁止などの考え方について理解するとともに、人権を守るための法制度、近年の動向について学ぶ。〈演習内容〉<br>個人の人権が侵害されている状態について、事例に基づきグループで話し合う。 |
| ①　-2 人権と尊厳を支える介護 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>成年後見制度、日常生活自立支援事業、個人情報保護法など実際の介護や障がい福祉分野における利用者の人権を尊重した関わりについて学ぶ。<br>〈演習内容〉<br>介護職として利用者に関わる際の基本的視点や実践について事例に基づきグループで話し合う。 |
| ②　自立に向けた介護 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>利用者の自立支援、残存能力の活用、自己実現の支援など、自立に向けた介護の重要性と意義を理解するとともに、介護予防の視点を学ぶ。<br>〈演習内容〉<br>介護の実践において自立支援・介護予防の考え方がどのように活かされているか、事例を通じてグループで話し合う。 |
| 合計 | 9 時間 | |

| 3　介護の基本（6 時間） | | |
|---|---|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>訪問看護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性、介護職の役割と専門性、福祉・保健・医療分野の専門職の理解と他職種との連携の意味と方法を学ぶ。 |
| ② 介護職の職業倫理 | 2 時間 | 〈講義内容〉<br>法律や倫理綱領の解説を通じて介護職の職業倫理を理解し、倫理に根ざした姿勢、支援の仕方を学習する。<br>〈演習内容〉<br>介護職が現場で直面する倫理的問題について、事例を通じてグループで話し合う。 |
| ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 2 時間 | 〈講義内容〉介護における安全確保、リスクマネジメントの手法と、事故に至った際の対応を理解する。また感染症対策について学ぶ。 |
| ④ 介護職の安全 | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>介護職に起こりやすい健康被害やストレスと、それらに対する事業者の取り組みや健康管理について理解する。 |
| 合計 | 6 時間 | |

| 4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携（10 時間） | | |
|---|---|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 介護保険制度 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>介護保険制度の背景と意義、制度の基本的仕組みと財源、ケアマネジメントの意義、代表的なサービスと利用の流れを理解する。 |
| ②-1 医療との連携とリハビリテーション[その他の部分] | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>医療・看護職と介護職のそれぞれの役割および連携について学ぶ。 |
| ②-2 医療との連携とリハビリテーション[医行為と介護][訪問看護に関する部分] | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>医行為の考え方を学び、一定の要件の下に介護福祉士等が行う医行為（喀痰吸引等）を知る。 |
| ②-3 医療との連携とリハビリテーション[リハビリテーション医療に関する部分] | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>リハビリテーションの過程とリハビリテーションスタッフの役割を理解する。 |
| ③ 障害者総合支援制度及びその他制度 | 4 時間 | 〈講義内容〉<br>障害者自立支援法と障害者総合支援法の背景と意義、介護給付・訓練等給付の申請から支給決定までの流れと制度の財源、および障がい福祉サービスの種類と利用の手順を理解する。生活保護制度、成年後見制度、日常生活自立支援制度、虐待防止法など、個人の権利を守る制度について理解する。 |
| 合計 | 10 時間 | |

| 5　介護におけるコミュニケーション技術（6 時間） | | |
|---|---|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 介護におけるコミュニケーション | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>介護におけるコミュニケーションの意義と基本的姿勢を確認した上で、共感、受容、傾聴的態度、気づきなど具体的な技法や利用者の特徴に応じたコミュニケーションの取り方について理解する。<br>〈演習内容〉<br>教科書のトレーニングワークを実践し、コミュニケーションの基本について多様な側面から体感し理解を深める。 |
| ② 介護におけるチームのコミュニケーション | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>介護における記録の意義とチーム内での情報共有の重要性、記録の種類、報告・連絡・相談の意義、カンファレンスの意義について理解する。<br>〈演習内容〉<br>記録による情報共有がチームケアにおいてどのような意味を持ち実践に活用されているか、事例に基づきグループで話し合う。 |
| 合計 | 6 時間 | |

| 6　老化の理解（6 時間） | | |
|---|---|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 老化に伴うこころとからだの変化と日常 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>老化に伴う心身の機能の変化と観察のポイント、老化が日常生活におよぼす影響について理解する。<br>〈演習内容〉<br>加齢に伴う心身の変化が日常生活に影響する事例についてグループで話し合う。 |
| ② 高齢者と健康 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>高齢者に多い疾患や生活習慣病、老化に伴う疾患について学習し、日常生活上の留意点について理解する。 |
| 合計 | 6 時間 | |

| 7　認知症の理解(6 時間) | | |
|---|---|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 認知症を取り巻く状況 | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>認知症高齢者の行動や心理症状の学習を通じて、認知症ケアの理念を理解する。 |
| ② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 2 時間 | 〈講義内容〉<br>認知症の概念や原因となる疾患と病態、診断に用いられる評価表などの医学的な理解とともに、予防のための対策や健康管理について学習する。 |
| ③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 | 2 時間 | 〈講義内容〉<br>認知症の周辺症状とそれに伴う生活障害、心理・行動特性の学習を通じて、認知症の利用者に対する適切なコミュニケーションとケアの方法について理解する。<br>〈演習内容〉<br>事例を通じて、認知症特有の行動が現れる原因やそれに対する対応についてグループで話し合う。 |
| ④ 家族への支援 | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>認知症の高齢者を支える家族の介護負担感を理解し、エンパワメント、レスパイトケアなどの視点から家族への支援について理解を深める。<br>〈演習内容〉<br>事例を通じて、家族がストレスを抱える原因や介護職としての関わり方についてグループで話し合う。 |
| 合計 | 6 時間 | |

| 8　障がいの理解(3 時間) | | |
|---|---|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 障害の基礎的理解 | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>障がいの概念とＩＣＦの考え方、ノーマライゼーションの概念について学習し、障がい者の介護にあたる基礎的な理解を深める。 |
| ② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識 | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>障がいの種別ごとに症状、心理・行動の特徴および介護の留意点について理解する。 |
| ③ 家族の心理、かかわり支援の理解 | 1 時間 | 〈講義内容〉<br>障がい児・者の家族の心理と障がい受容の過程、家族をサポートする社会資源について理解する。<br>〈演習内容〉<br>障がい児・者の家族に必要な関わりや社会資源についてグループで話し合う。 |
| 合計 | 3 時間 | |

| 9　こころとからだのしくみと生活支援技術（81 時間） | | | |
|---|---|---|---|
| 基本知識の学習 | 〈基本知識の学習〉(9 時間) | | |
| | 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| | ①　介護の基本的な考え方 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>・介護の理念や法的根拠、および利用者主体・生活支援・QOL の視点から介護サービスの目的について理解する。 |
| | ②　介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>記憶や感情のメカニズム、幸福感や生きがいを感じる自己の概念、老化や障がいの受容と適応の心理的過程について理解する。 |
| | ③　介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>・人体に関する各部の名称とその動き、骨や関節の構造、中枢神経系と末梢神経系に関する基礎知識、自律神経と内部機関に関する基礎知識、バイタルサインについて理解する。 |
| 生活支援技術の講義・演習 | 〈生活支援技術の講義・演習〉(50 時間) | | |
| | ④　生活と家事 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>生活支援としての家事サービスについて理解し、調理、洗濯、掃除等の実際のサービス遂行における留意点を学ぶ。 |
| | ⑤　快適な住環境整備と介護 | 3 時間 | 〈講義内容〉<br>快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法について理解する。<br>〈演習内容〉<br>・福祉用具に実際に触れ、もしくは映像等を通じて理解を深める。 |
| | ⑥　整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7 時間 | 〈講義内容〉<br>身なりを整えることの意義や目的、口腔ケア、整容のために必要な支援技術と考え方について理解する。<br>〈演習内容〉<br>受講生をグループ分けし、以下の実技演習を行う。<br>・身体に合わせた衣類の選択、衣類の着脱<br>・タオルを用いた洗面の模範演技<br>・整髪・爪切りの模範演技 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 9時間 | 〈講義内容〉<br>・移動・移乗の意義をはじめ、安全で安楽な介助のためのボディメカニクス、人体の構造や基本肢位の理解、具体的な介助技術について理解する。<br>〈演習内容〉<br>受講生をグループ分けし、以下の実技演習を行う。<br>・ベッドに寝ている状態での体位変換<br>・車いすの移動介助<br>・ベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗介助<br>・立位が取れない方のベッドとリクライニング車いす間の移乗介助<br>・車いすからの歩行介助<br>・車椅子介助の注意点及び、操作方法<br>・杖歩行の介助<br>・視覚障害者の歩行介助 |
| | ⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6時間 | 〈講義内容〉<br>・食事に関する基礎知識<br>・食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ<br>・楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について理解する。<br>〈演習内容〉<br>受講生をグループ分けし、以下の実技演習を行う。<br>・口腔体操<br>・食事前の準備<br>・とろみ材を使用した食べ物の試食<br>・乾燥した物を食べ、口内が乾燥した状態での嚥下の難しさを体感する<br>・二人ペアになり仰向け状態での食事介助の実施<br>・歯ブラシによる口腔ケア |
| | ⑨ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7時間 | 〈講義内容〉<br>入浴清潔保持に関する基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、入浴・清潔を保つための方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因と支援方法について理解する。<br>〈演習内容〉<br>・入浴補助用具の使用および清拭の実技<br>・全身浴・半身浴の介助<br>・部分浴（足浴）の実技<br>・ベッド上での洗髪 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7時間 | 〈講義内容〉<br>排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について理解する。<br>〈演習内容〉<br>受講生をグループ分けし、以下の実技演習を行う。<br>・ベッド上でのおむつ交換<br>・ポータブルトイレを使用した排泄介助<br>・差し込み便器を使用した排泄介助 |
| | ⑪ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 5時間 | 〈講義内容〉<br>睡眠に関連する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について理解する。<br>〈演習内容〉<br>受講生をグループ分けし、以下の実技演習を行う。<br>・ベッドメイキングの実技演習<br>・安楽な姿勢の介助と、褥瘡予防の為の体位変換 |
| | ⑫ 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護 | 3時間 | 〈講義内容〉<br>終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援について理解する。<br>〈演習内容〉<br>テキストの事例についてグループ討議を行い、発表する。 |
| 生活支援技術演習 | 〈生活支援技術演習〉(10時間) | | |
| | ⑬ 介護過程の基礎的理解 | 3時間 | 〈講義内容〉<br>介護計画に基づく介護過程の展開と基本的な視点・姿勢、介護過程の必要性について理解する。<br>〈演習内容〉<br>介護計画の策定、個別支援計画の策定 |
| | ⑭ 総合生活支援技術演習 | 7時間 | 〈演習内容〉<br>具体的な生活場面を想定した事例をテーマに、利用者の心身の状態に合わせた介護技術の提供についてグループ毎に実技を行い、介護手順の習得と技術習得レベルの確認を行う。<br>※事例は異なる場面を想定した２事例を実施する。 |
| 実習 | | 12時間 | 施設・居住型および通所事業所における実習（６時間×２ヵ所）<br>※高齢と障がい系の両方を含む<br>※実習先については、受講生の希望を確認した上で受入先施設の条件等を考慮し決定する。 |
| | 合計 | 81時間 | |

| １０　振り返り（4 時間） | | |
|---|---|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 振り返り | 2 時間 | 研修を通じた学習内容について、チェックシートによる振り返りとグループディスカッションを通じて整理する。介護職として必要な視点や姿勢について再確認し、理解度のチェックを行う。 |
| ② 就業への備えと研修終了後における継続的な研修 | 2 時間 | 〈講義内容〉<br>・研修終了後に継続的に学ぶべきことを理解する。<br>〈演習内容〉<br>・研修終了後における継続的な研修について、具体的な実例を紹介する。 |
| 合計 | 4 時間 | |
| 全カリキュラム合計時間 | 137 時間 | |

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。
※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること